

3. 産業動向

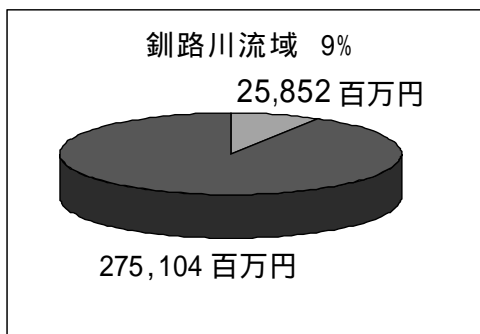
北海道は地球規模に重点を置いた食料基地としての役割が期待されており、この中で釧路・根室地域には酪農や水産業の展開が求められている。

3-1 漁業

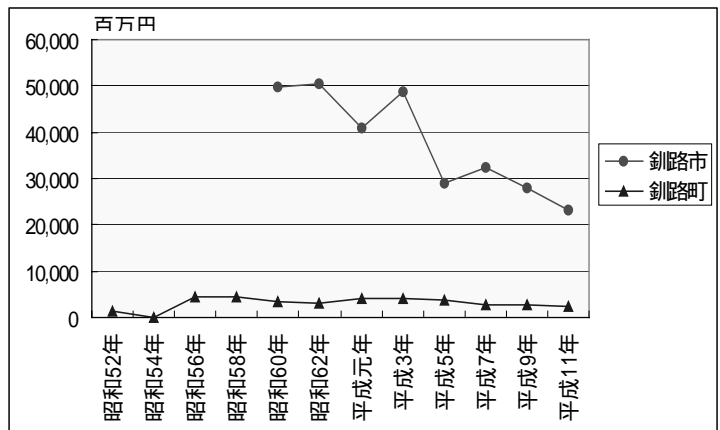
釧路川流域の漁業は国際漁業規制の強化や主力であったイワシ漁の衰退などにより、厳しい状況にある。「国連海洋法条約」の発効による200海里体制の定着や漁獲可能量制度の導入など新しい海洋秩序の時代を迎えているなか、時代に対応した漁業の確立や活力ある漁業基地の再生に、一層取り組む必要が求められている。

漁業生産高の北海道における流域の割合(H11年)と推移

流域の漁業は北海道の生産高の9%を占め、沿岸部に位置する釧路市と釧路町を中心に行われている。漁業生産高は昭和62年に比較して約半分となっている。



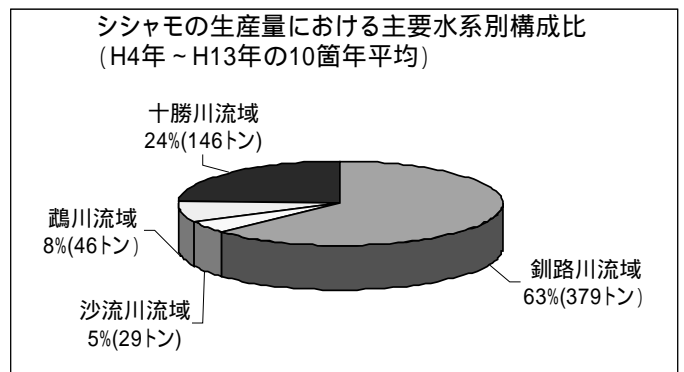
〔資料：平成13年
北海道市町村勢要覧〕



〔資料：平成13年北海道市町村勢要覧〕

シシャモの生産における主要水系別構成比(平成4年から平成13年の10ヶ年平均)

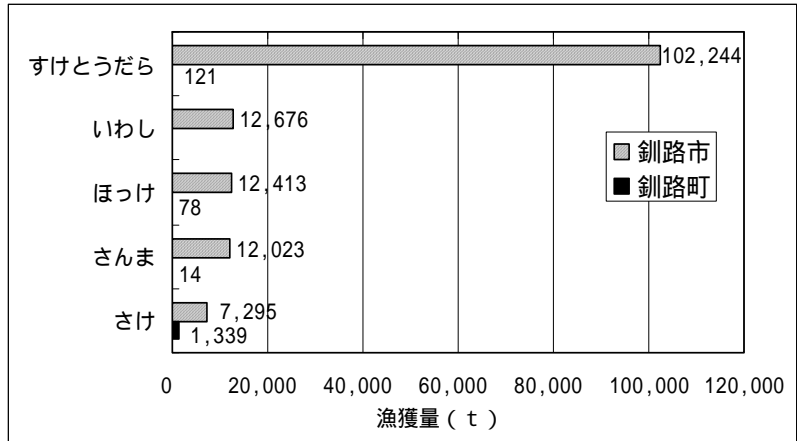
流域の特徴的な漁種にはシシャモが挙げられ、道内の主要生産河川と比較すると、釧路川は63%の生産高を示し、道内一位のシシャモの生産地となっている。



〔出典：北海道水産林務部 企画調整課調べ〕

漁種別漁獲量(平成11年)

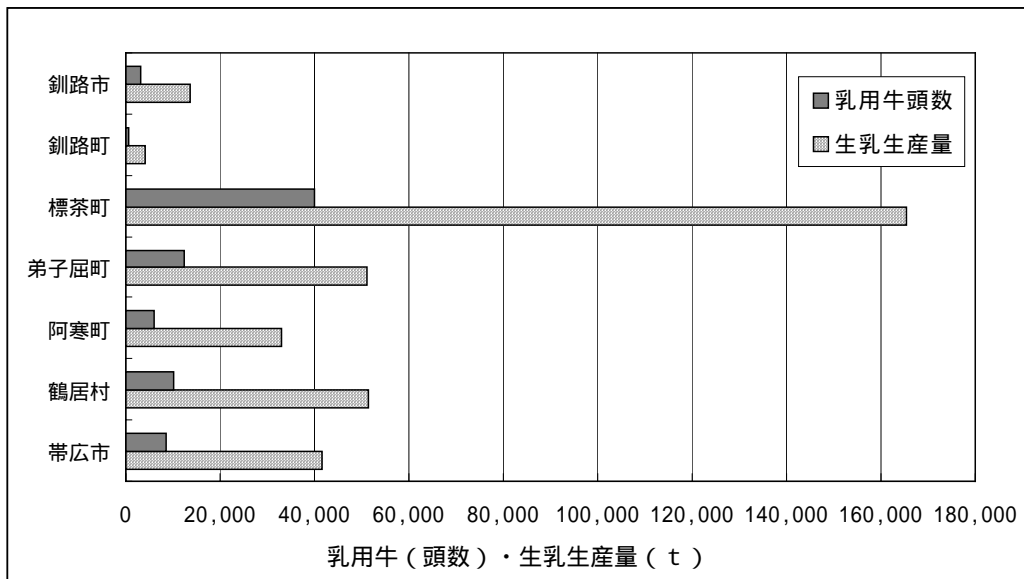
漁種別漁獲量では「すけとうだら」が特に多い。



3-2 酪農

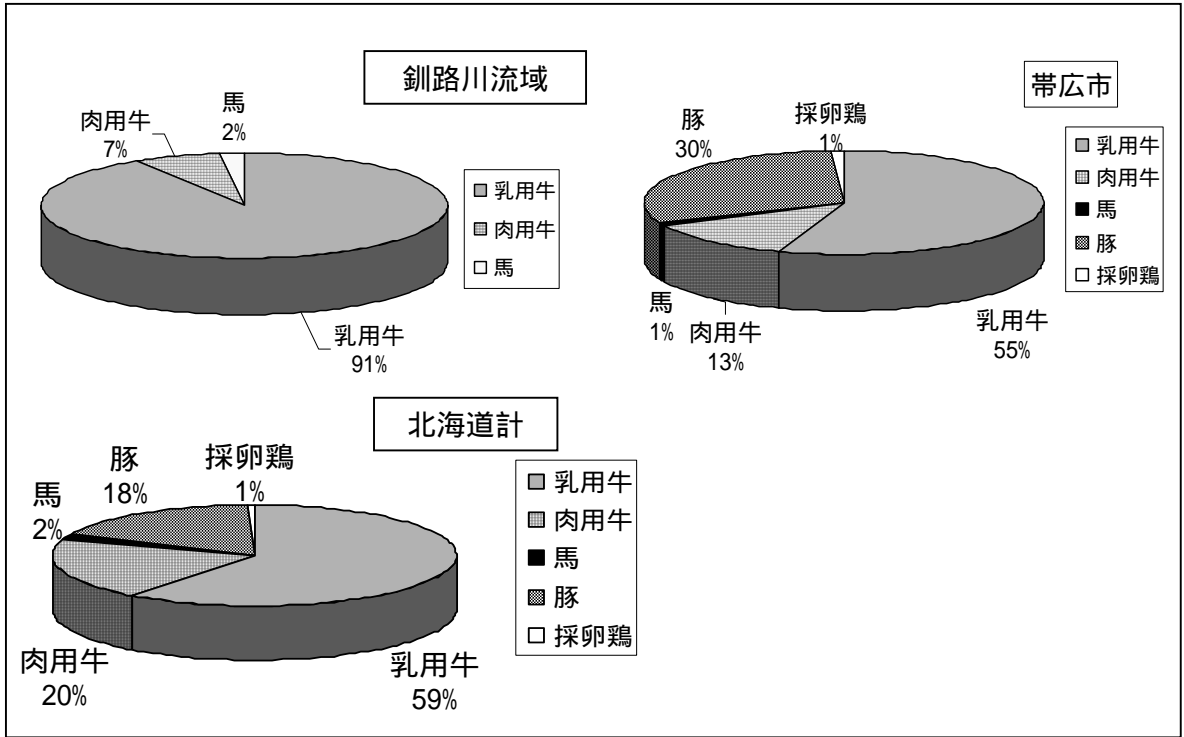
乳用牛・生乳生産量(H11年)

酪農が盛んな帯広市と釧路川流域市町村の乳用牛及び生乳生産量を比較すると、標茶町・弟子屈町・鶴居村で帯広市を上回っている。



家畜飼育数構成比(H14年度)

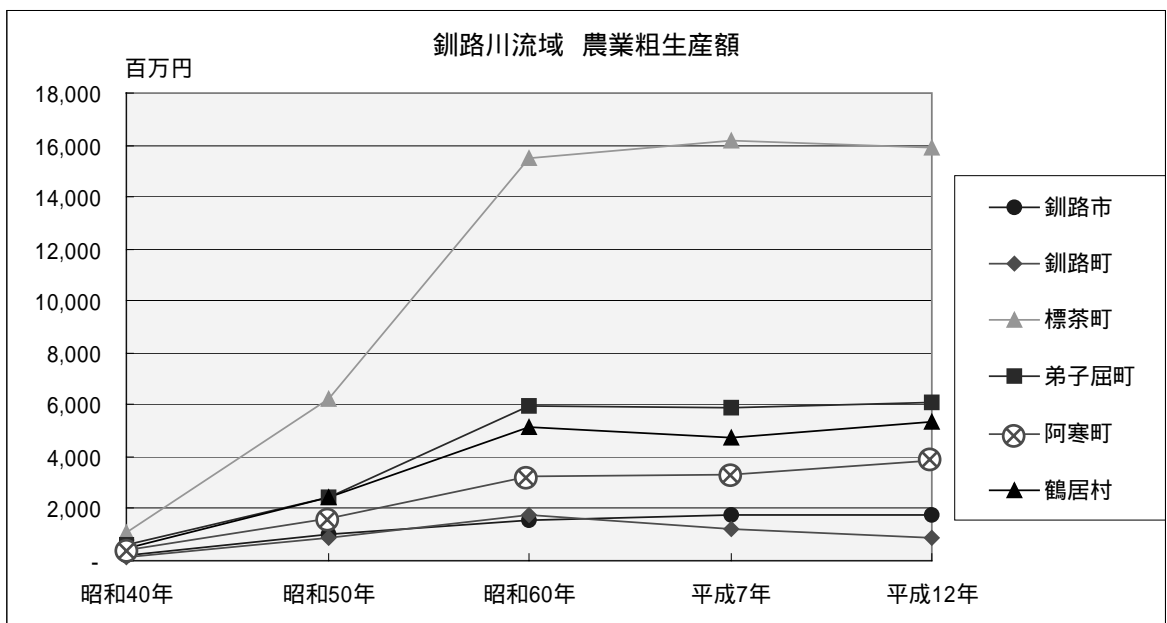
流域は北海道や帯広市に見られる酪農形態とは異なっており、乳用牛と肉用牛で98%を占め、豚はほとんど飼われていない。



〔出典：平成13年 北海道市町村勢要覧〕

畜産の農業粗生産額の推移

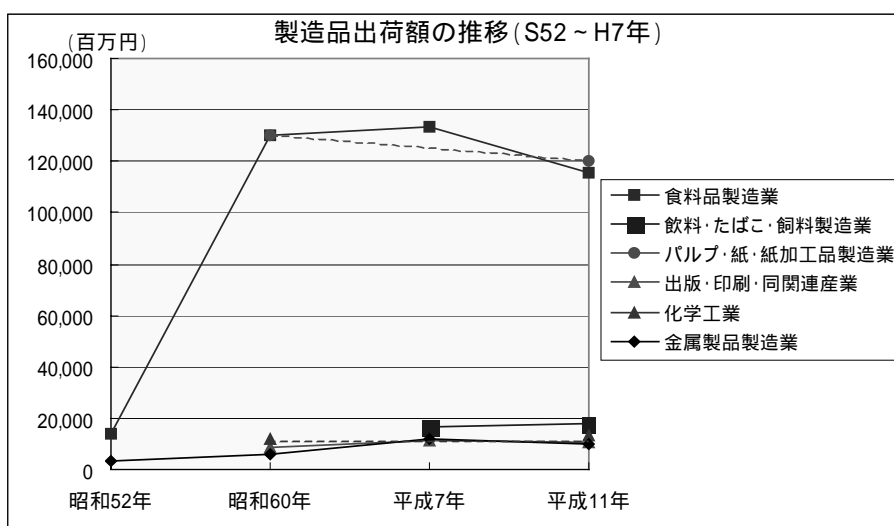
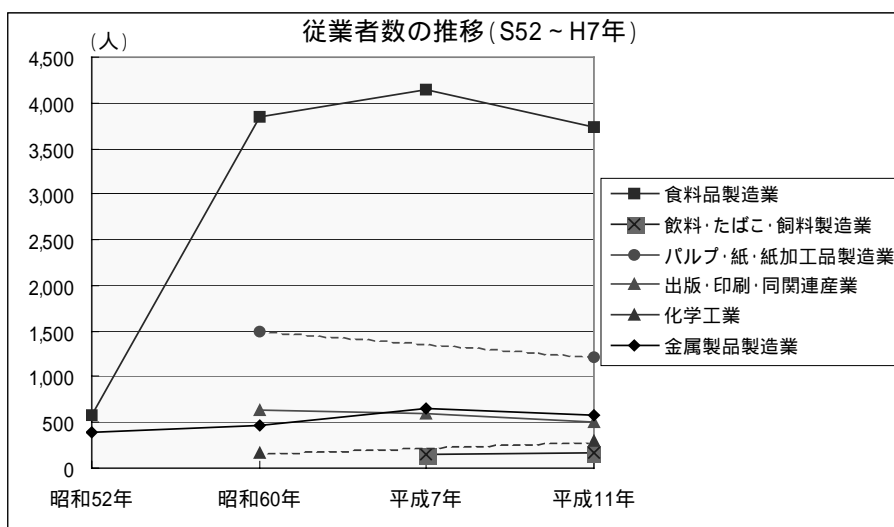
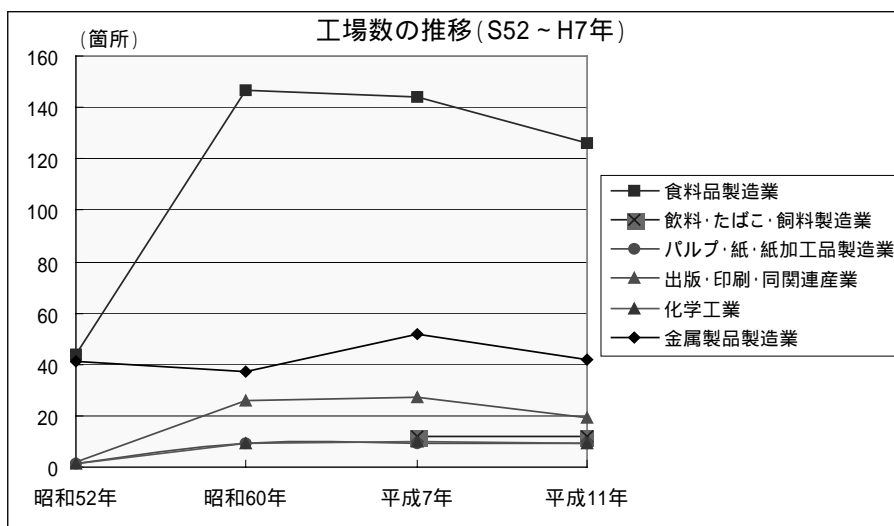
酪農の動向は事業体数の減少しているものの、酪農経営体系の大型化などが進み、生産額では概ね横ばい傾向を示している。なお、流域の酪農は標茶町を中心に行われている。



3-3 工業

製造品出荷額の推移

工業は出荷額で見ると食料品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が多い。
工業全般的に昭和 60 年以降は減少傾向を示しており、紙類などの製造業に石炭産業の減少が影響している。

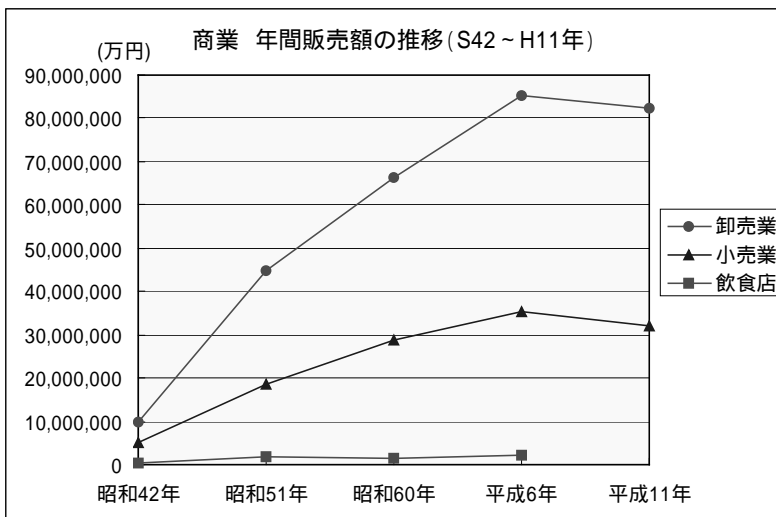
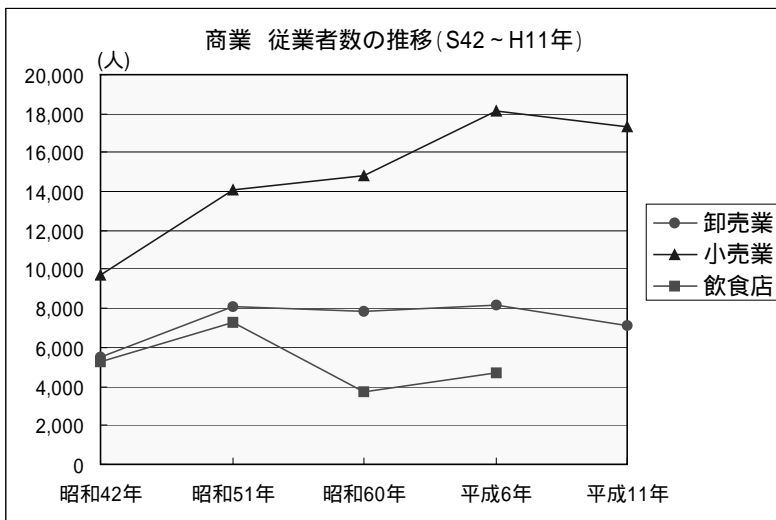
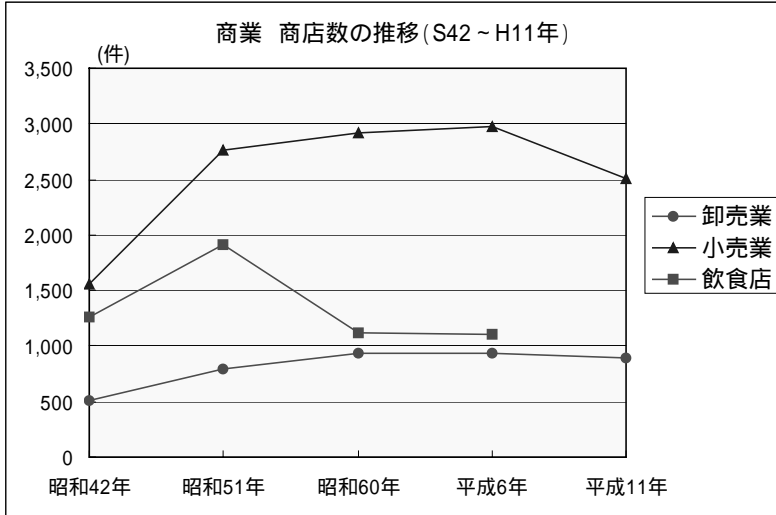


〔出典:北海道統計・工業統計調査結果の概況〕

3-4 商業

商業の年間商品販売額からみた、北海道における釧路川流域の割合(H11年度)

商業は平成6年以降、減少傾向にある。内訳では商店数・従業者数とも小売業が最も多いが、販売額では低く、卸売業が最も多い状況にある。



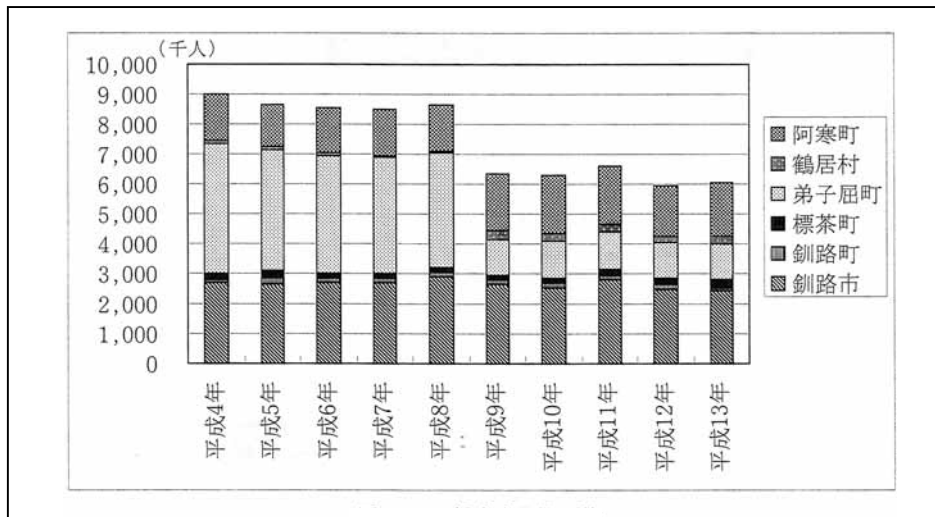
平成11年の飲食店は統計されていない。〔出典:商業統計〕

3-5 観 光

観光は釧路湿原が中心で、釧路川源流部から下流部に至りカヌー利用が盛んである。
イベントは自然触れ合いに関わるものが多く、湿原周辺に集中している。

観光客入込み数の推移

観光は全体的に横ばい傾向にあり、近年の観光では SL 運行やオホーツクの流水観光と一体となったツアー、カヌー利用が挙げられる。



〔出典：観光入込客数調査報告書〕

入込み数は平成9年以降、計上方法が「延べ人数」から「実人数」方式に変更されたため、数値に大きな変動がある。